「木造軸組工法による高耐力耐力壁(木住協仕様)活用マニュアル」 正誤表(案)

2021/11/5 日本システム設計

ページ、位置等	誤	正	備考
P.2-37 12 行目	(=50 mm)	(=150 mm)	
「1:主材厚」の値			
P.2-36 式 18	誤		木規準の式を引用。
	$Pa = jKd \times jKm \times min(jK_0 \times Py, jK_0 \times jKf \times Pu_0)$ (式 18)		但し、アンカーボルト
	ここで、		接合部の先行降伏
	Py: 単位接合部の降伏せん断耐力		によって耐力壁の最
	Pu ₀ :単位接合部の終局せん断耐力 jKd:荷重継続期間影響係数。短期許容耐力には 2/3 を用いる		大耐力が阻害されな
			いために、接合部の
	jKm:含水率影響係数。S62 建告第 1898 号に準拠する材料を用		降伏耐力 Py が耐力
	いるため 1.0 とする		壁の最大耐力時の
	jK0:基準化係数。本接合部は常時荷重の影響がなくクリープを生		接合部応力以上とな
	じないため 1.0 とする		るように、jKd を 2/3 と
	jKf:安全係数、2/3 とする		して表記。
	正 $Pa = (2/3) \times jKd \times jKm \times min(jK_0 \times Py, jK_0 \times jKf \times Pu_0) (式 18)$		木規準の式を引用。
			但し、アンカーボルト
	ここで、		接合部の先行降伏
	Py:単位接合部の降伏せん断耐力		によって耐力壁の最
	Pu ₀ : 単位接合部の終局せん断耐力		大耐力が阻害されな
	jKd:荷重継続期間影響係数。本接合部は常時荷重の影響がなく		いために、接合部の
	クリープを生じないため、木材のクリープ特性に基づく基準化係数		降伏耐力 Py が耐力
	jK ₀ を1.0とし、短期のjKdには1.0を用いる jKm:含水率影響係数。S62 建告第 1898 号に準拠する材料を用		壁の最大耐力時の
			接合部応力以上とな
いるため 1.0 とする			るように、安全率 1.5
	jK ₀ : 基準化係数。本接合部は常時荷重の影響がなくクリープを生じないため 1.0 とする		を考慮し、jKd を 1.0
			に変更。なお、修正
	jKf:安全係数、2/3 とする		後の計算結果に変
			更はない。